

論壇



石川 元平

読谷村で屋良朝苗展が開催中である。その中に、私が提供した少年会館（現久茂地公民館）落成式での屋良沖繩子どもを守る会長の「あいさつ原稿」が展示されている。式典出席者の顔触れを見ると、本土から総務長官代理、茅誠司東大総長、全国の小中高校長協議会長、全国私

立中高校連合会理事長、東京都立小中高校長会長、南方同胞援護会代表の方々が遠路来沖した。地元沖繩からは松岡琉球政府行政主席、長嶺立法院議長、山本事務所長、さらに少年会館建設を妨害した米側からもフィンク教育局長が来賓として出席した。

少年会館は善意の象徴

保存・活用 教育行政の務め

式典での屋良会長の「あいさつ」の一部を紹介したい。「特筆大書して申し上げねばならぬことは、全国小中高校児童生徒の莫大な募金があったことであります。その額は実に6400万円（18万ドル）に達し、本館所要資金の半額に当たるのであります」と述べ、続けて「全国児

童生徒の至純な友情からの協力の賜であります。私はここに思いをいたした時、お礼の言葉もなく、只只満腔の誠意を披瀝して皆さまに厚く厚く敬意を表し、感謝を捧げる次第でございます。かくして本会館は皇太子殿下ご夫妻をはじめ、沖繩および本土の篤志家の皆さまの深い

ご関心とご協力、特に全国児童生徒の沖繩の青少年に送る温かい友情のプレゼントとして、見事な実を結んだのであります。そして、この幾千万人におよぶ人ひとの心温まる理解と好意と激励の結集したシンボルとして、教育上非常に意義をもつ施設として、即ち本会館はこれを

利用する青少年の健全育成の拠り所となり、学習の場となり、また本土青少年との交歓の場となり、提携の懸け橋となり(略)人間育成に直接間接的に非常に大きな貢献をなすものと期待するものであります」(以下省略)

り、あえて屋良会長のあいさつ文を長長と引用させていただいた。それは、いま少年会館を解体しようとしているのが、外ならぬ県都那覇の教育行政を取り仕切る、那覇市教育委員会だからだ。幾千万人の善意の魂が籠もる少年会館に、非情極まりない巨大なハンマーを打ち下ろそうというのか。教育者として良心の呵責はないのか、と問わずにはいられないのである。

私は、少年会館は復帰前の苦難な時代の過去を「物をもって語らせる」、「生き証人」的存在であると信ずる。その歴史的価値や建造物としての価値を考えると、文化遺産として保存、活用を図ることこそ、教育行政の務めではないのか、とただしいのである。

(元沖教組委員長、宜野湾市、74歳)